

地域を守る自主防災会

自主防災会は、地域の人たちが自分たちの町を守るため、日ごろから話し合いや訓練などを行い、防災活動を効果的に行うための組織です。この組織は、災害対策基本法で定められている全国の市町村単位で結成されている組織です。市では、主に各総代区のもと1世帯1人が会員となり、現在184隊が結成され、活動しています。

自主防災会の活動

災害時に自主防災会が、効果的に力を発揮できるかどうかは、一人ひとりの普段からの防災意識にかかっています。ここで自主防災会の活動についてご紹介します。

■ 平常時の活動

○正しい防災知識の習得と普及
講習会などを開催して正しい防災知識を身につける。

○ 地域内の防災環境の確認

災害が発生した際に予想される危険な場所、援助が必要と思われる災害時要援護者がいないかなどの確認調査を行う。

○ 各家庭での安全点検

家庭ごとに災害時における自

分の家の安全対策を検討し整備する。

○ 防災用資機材の点検整備

いざという時に備え、消火、応急手当、救出・救護、避難誘導の活動資機材の点検整備をする。

○ 地域防災訓練の実施

消火器の使用方法や応急手当の方法など、防災活動に必要な知識や技術を習得するため、各地域のリーダーを中心に自主的な訓練を実施する。

■ 災害時の活動

自主防災会では、非常時に活動がスムーズに行えるよう、各隊に班を編成しています。

○ 情報班

デマなどに惑わされないように、災害に関する正しい情報を収集し、住民に伝達する。

○ 消火班

地域からの出火防止を行うとともに、出火した場合の初期消火を行う。



○ 避難誘導班

地域内に危険が迫ったとき、住民の避難誘導を行う。

○ 救出・救護班

負傷者や災害時要援護者の救出・救護や救護所までの搬送を行う。

○ 給食・給水班

飲料水や食料などの配分や炊き出しなどを行う。

○ 衛生班

消毒活動を行い、ゴミおよびし尿などの処理を行う。



住民によるみんなが安心できる地域づくり

消防本部予防課 消防司令補 辺見智幸

平成24年1月31日から3月1日までの約1カ月、宮城県南三陸町に東三河災害支援隊として派遣され、町内外併せて58カ所ある仮設住宅の維持管理業務に携わりました。

発災後、約10カ月が経過し、町には信号機が設置され、仮設のコンビニや復興商店街などが建ち、少しずつではありますが復興の兆しが見えてきました。仮設住宅も入居当初の慌ただしさはなくなり、随分落ち着いてきたと聞きます。

そんな中、ある仮設住宅では自治会長が企画した応急手当や消火訓練を、いつまた来るかわからない災害に備え、入居者みんなで真剣に行っている仮設住宅がありました。被災後まだ1年もたたず、悲しみもすべて癒えないうちに次の災害に備え訓練を行うその前向きさ、積極さに感動を覚えました。

皆さんの住む地域の自主防災会はどうでしょうか。明日来てもおかしくないと言われる東海地震に備え、積極的に訓練を行っていますか。自分の命を守れるのは自分自身であり、その地域を守れるのは住民の方々です。みんなが安心できる地域づくりを、まずは訓練に参加することから始めてみましょう。